

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人種栄会 グループホームほほえみ
(ユニット名)	はなユニット
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市萩坂町1750-1
記入者名 (管理者)	池村 やよい
記入日	平成 19年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮らし続けるための事業所独自の理念は作り上げているが、地域との関係性に欠けている	○	地域密着型サービスの意義をもう一度、職員全員で確認し、理念に基づき地域の中での暮らしを考えていきたい
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識できるよう室内に提示し、日々のサービス提供場面(言葉かけ、態度、記録など)において、理念の実践に取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに記載したり、地域のイベントへの参加はしているものの、理念の説明など理解してもらえるような取り組みは出来ていない	○	ホームでのイベント参加への呼びかけなども積極的に行い、そのような場で理解していただけるような説明も行っていきたい
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩に出かけ、野菜などおすそわけして頂く事もあるが、外出の機会は少なく、こちらから日常的な付き合いが出来るような働きかけは出来ていない	○	災害対策への備えとしても、近隣の人々との馴染みの関係を築けるよう、日常的に出来るだけ近所へ出かけ、触れ合う機会を多く持つようにしたい
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや運動会など、利用者とともに積極的に参加している。また、事業所に近隣の小学生や中学生が、体験学習に来てくれるなど、地域との交流がある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は地域の研修に参加したり、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている	○	地域住民を対象に、認知症の理解を深める勉強会なども検討したい
(部分は外部評価との共通評価項目です)				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解できており、自己評価を全職員で行うことにより、サービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けての検討や実践につなげている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から現在取り組んでいる内容について、報告できており、参加メンバーからの質問、意見、要望を受けることにより、サービス向上に努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会以外は、市町村担当者と行き来する機会は今のところない	○	サービスの質の向上に向けて、事業所を市職員の研修場所として活用してもらおうなど検討したい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用は実施できていないため、今後の課題である	○	管理者だけでなく、全職員が理解を深める為に勉強会などを開き、必要なときに支援できる体制を整えていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については勉強不足であり、全職員が理解を深める必要がある	○	勉強会やミーティングで高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を作りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には受容的で話しやすい雰囲気を作り、入居者及び家族へサービス内容、提供方法、費用、医療機関との連携など、十分な説明を行い同意を得た上での手続きを進めており、この時に事業所として出来ないことについても的確に説明している</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に入居者に対し、傾聴の姿勢でのケアを心がけ、問題が発生した時はスタッフ全員で対応を話し合っており、解決を図っている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月のお手紙にて、健康面や日々の生活などを伝えたり、面会時にも家族との情報交換を行なっている。また、状態の変化や必要時には随時、家族へ電話報告を行なっている。その他、毎月新聞を発行、お手紙と一緒に送付している。金銭出納帳にて、金銭管理の明細を報告している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書において、苦情相談窓口を明示しており、ホーム内にも提示している。家族からの意見や要望はカンファレンスで話し合いながら、個々のケアに活かしている</p>	<p>○ 2ヶ月に1回、当ホームにて、運営推進会議を開催。地域住民、運営者、市職員、入居者家族、運営者、管理者などで意見交換を行っており、運営に反映している</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、両ユニット合同でカンファレンスを行い、スタッフ間での意見交換を通して把握でき、運営に反映させている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態や、個別の外出などの要望にも対応できるよう、パートも含め余裕のあるスタッフの人員の確保と、柔軟な勤務体制が整っている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットでスタッフの配置は固定化しているも、バランスシートや合同カンファレンスにより、スタッフ全員で両ユニット入居者の状況を共有。入浴も一緒に行なっているため、ホーム全体で馴染みの関係に取り組んでいる。なお、異動や離職の際には、十分な引継ぎが出来るようなローテーションを組んでいる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では定期的に勉強会を実施。更に、技術や知識を高めるため、外部の研修にも積極的に参加しながら、スタッフの質の向上と、質の高いケアを目指している</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの勉強会を通して交流、意見交換の場を設け、よりよいサービスが提供できるよう努めている。2ヶ月に1回のグループホーム連絡協議会に参加し、地域の同業者とのネットワークにも積極的に取り組んでいる</p>	<p>○ 今後も他グループホームとの交換研修や親睦会を開くなどの活動に取り組んでいきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務上のストレスや悩みには耳を傾けながら、常にスタッフの状況の把握に努めている。また、連休で心身を休めることが出来るよう勤務にも配慮している</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>週40時間の労働であり、残業はほとんどなく就業規則がきちんと守られている。年1回の健康診断も行い、職員の健康管理も行なっている。また、職員の資格取得に向けた支援を行なっている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>主に併設の病院からの入居でもあり、事前に情報は得られ、心身の状況は把握できている。状況を把握した上で関係作りに努めるとともに、受容と共感、傾聴しながら相互理解できるように努めている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前は家族と十分な話し合いと情報交換を行い、信頼関係作りに努めている。家族の希望、要望を理解し、個々に適したサービスの提供につなげている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	本人やご家族、併設の居宅の方々などと連携しながら、必 要に応じ、他の併設のサービス利用を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	入居前に何度か見学に来ていただいたり、短時間でもホ ムに来ていただき、雰囲気や他者、スタッフとの交流に努め ている。しかし、やむをえない理由で入居に至った場合は、 ケアマネージャーや馴染みの職員などに来ていただいでい る		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の会話の中で、本人様の思いや悲しみ、怒りを共 感したり、ホーム内での必要性を感じられるよう、料理作りを 教わったり、味付けを見てもらうなど、家事全般において、入 居者様とともに行う場面作りをしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	つきに1度のお手紙や来訪時に、日々の暮らしの出来事や 変化を伝え、情報共有に努め、本人を支えるための関係を 築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ご家族様に本人の要望を伝え、外泊や外出を行っていた だけよう協力を得ている。疎遠となっている場合でも、月に 1度のお手紙にて報告したり、ご家族様を行事に誘うなどと 努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	散歩に行った際、地域に暮らす馴染みの友人、知人など のお宅で会話をされたり、併設のサービスを利用し、馴染み の人との交流が途切れないよう支援につとめている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せず利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	入居者一人ひとりの出来ること、出来そうなことを判断し、特 技や個性をうまく活かしながら、作業や役割を持ち、活動 を通して、他入居者様との係わり合いや支えあうような場面作り を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も施設内にあるデイサービスを利用するケースが多く、会いに行ったり、遊びに来られるなど関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や表情などを伺い、思いや意向をそれとなく確認するようにしている。困難な場合は、家族と話し意向を伺い検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などは、本人や家族、ケアマネージャーからの情報で大まかに把握できている。居室には馴染みの物を持ってきていただき、安心して過ごせる場所となっている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人を見守りやすい間取りになっており、一日の暮らしや、全体の生活リズムを把握している。出来ること、出来ないことはアセスメントシートを作り、把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを行っている。その際、全ての職員の意見や気づきを取り入れ、介護計画書の作成を行っている。本人、また、家族の意向は面会時や日常生活の中で伺い反映している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画書の評価、見直しを全体カンファレンスのときに行っている。その他の状態変化や状況もスタッフ間での見直しは出来ている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバランスシートに入居者様全員のバイタル、食事量、尿の回数、日勤、夜勤、受診やリハビリ、伝達事項を記入しており、なおかつ個々の記録として一人一人の日々の状態や様子を具体的に記入している	○	個々の記録は十分出来ているが、実践や介護計画など中途半端になることがあるので、今後は活かしていけるように取り組んでいきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人様や家族様の状況や希望に応じて、併設のデイサービスやデイケア、移動美容室など、臨機応変な対応にて支援できている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事には参加しており、ボランティア、中学生の体験学習の受け入れを行ったり、近隣の商店や警察などには声かけしているが、理解を広げる働きかけとしては不十分である	○	お便りの配布をしたり、地域の方々との交流を図ったりと、積極的な支援の働きかけが必要である
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケア、デイサービスが併設しているので、希望に応じて利用したり、月1回の訪問理美容サービスも体調や希望にて対応している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	居宅介護支援事業所も併設し、2ヶ月に1回行っているGH推進委員会にセンターの職員の方も参加されているため、情報交換の連携は図れている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関併設であるが、他科への受診も本人や家族様の希望にて受診していただけるように支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームは医療機関併設であり24時間的確な指示がもらえ、他科への受診の場合でも、協力医療機関にて対応できる		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療機関併設で、24時間医師や看護師に相談が出来る		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院された場合には、本人様の状況を把握し、入院先の医療機関やご家族様にも情報を提供、交換しながら、早期の退院へ努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師、家族、看護師を交えて話し合いを行い、ご家族様の気持ちや本人の思いに十分注意して、支援に努めている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様の意向に応じて、医師や看護師、職員が連携をとり、急変の場合にも、医療機関併設であるため、すぐに対応が出来る		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者様に不安や心配を与えないように、十分な説明を行い、なおかつ、ケアマネージャーやグループホームの職員が家族様との密な情報の交換を行って、ダメージの防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重し、丁寧、適切な言葉かけや対応を心掛けている	○ 一人一人のプライバシーを尊重し、不快感を与えないように心がける
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重し、入居者一人一人に合った、納得のいく説明をしている	○ 選択肢を多く持ち、自己決定をしやすい場面を作っていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にしており、何事も強制はしていない。また、希望に沿えるように努めている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じ、美容室の利用をしている。また、整髪、衣服などの身だしなみには、本人の納得のいくように努めている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューづくりや食材きり、味付け、配膳などそれぞれの入居者の力にあった家事を手伝ってもらっている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望により、牛乳やヨーグルトなどを注文したり、嗜好品を購入したりして、好きなときに飲食できるような支援を行っている。また、コーヒーやジュースなど、様々な飲み物や手作りのおやつなどを提供する、お茶の時間を毎日作っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間帯や状態に合わせて、トイレ誘導や声かけを行っている。また、排泄チェック表により一人一人の排泄パターンを把握するように努めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前中と決まっているが、入浴の希望や順番など、出来るだけ本人の希望通りにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、入居者の生活リズムを崩さないように、活動や休息を促し、夜間良眠出来るよう努めている	○	入居者一人一人の生活リズムを大切にして、安眠できるように努める
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	退屈な時間が減少するように、入居者一人一人に合った作業を促している。また、買い物やドライブに行き、気晴らしの支援をしている	○	様々な分野で、入居者一人一人の力を活かす支援を心がける
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を自己管理している人もいるが、基本的にホームで管理している。スタッフと一緒に買い物に行った際、支払いをしてもらう場面を作っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や遠出の要望には、あまり応えられていないが、近場での買い物、散歩、ドライブなど外出できる機会を作っている	○	外食や遠出のときは事前に計画を立て、スタッフの勤務調整を行う
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力もあり、外泊や外出、地域行事への参加など、様々な外出が出来ている	○	入居者同士(ホーム全体)での外出の機会を多く持ちたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は希望があれば、その都度、自由に利用していただいている。手紙はプライバシーを配慮し、本人へ手渡ししている	○	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作り。利用者の希望に応じて年賀状などを出す支援をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様、友人、知人などの訪問時は湯茶を出したり、居室や共有空間など、家族と入居者がくつろげる場所で自由に過ごしていただいている	○	ご家族様に気軽に来やすい雰囲気作りを心がけ、いつ訪問されてもいいように配慮する。職員はいつも笑顔でご家族を迎える
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の禁止の対応となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを実践している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の都合上、1階は鍵を掛けている。2回の玄関は鍵はなく、自由に入出りができ、出入りにセンサーを設置して人の出入りを把握している	○	利用者が出て行く気配を職員が見落とさないよう見守りや声かけを行う
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間毎に様子を確認し、起きられたとき対応できるよう工夫をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物などは、日常生活場面の中で、入居者も職員とともに普通に使用している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、転倒を防止するために車椅子を使用し、職員が必ず見守りを行う。誤薬防止のため、薬の内服を行う前に必ず、職員同士で日付、名前を確認している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に関する、対応マニュアルが用意されており、日常的に学習するように取り組んでいるものの、現在のところ、まだ不十分な面がある	○	スタッフ全員参加し、応急手当の勉強会を行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、利用者とともに、避難訓練を行っている。消火器の使い方などの訓練も同時に行っている	○	今後も自治会との避難訓練に、スタッフ全員が参加でき、防災に対する取り組みを行って行きたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の安全を確保しつつ、様々な役割、活動をスタッフが見守りながら、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応を心がけて、支援している。ご家族へは、アセスメントや手紙での連絡などで、理解していただいている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バランスシートや個人記録に、体調変化やバイタルサインを記録に残している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より服薬カードを頂き、職員全員が確認できるようファイルされ、処方時には、バランスシートに記入し、職員全員が確認し理解できるようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を心がけ、汁物や水分摂取量の少ない入居者には、水分ゼリーなどにより、水分補給を促している。下剤の調整や日頃より乳製品をを多くとるようにして、便秘を予防している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯の手入れ、お茶を使用してのうがい支援を実施。週1回、義歯の洗浄を行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量のチェックをバランスシートに記録し、摂取状況は把握できている。栄養面でも定期的に、管理栄養士のチェックと指導を受けている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置しており、感染症の予防に努めている。ホームでは毎食後、お茶でうがいをしたり、リハビリなど外出したときやトイレ終了後は、石鹼液で手洗いをし、ペーパータオルを使用している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は定期的に消毒し、食材は毎日、賞味期限などのチェックを行い、安全な食事の提供が出来るよう努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花、掲示板などにより、アットホームな雰囲気作りに努めている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳など、入居者が自由にくつろげる場所を設けている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人に適したことを、自分の仕事として、ホームでの必要性を感じられるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人が使い慣れたもの(机、椅子、CDプレーヤー、本、ラジオ)家族の写真を持っておられ安心して過ごせる場所となっている	○	居室に物があるかどうかではなく、馴染みの物を活かして、その人らしく過ごせる部屋にすることが大事
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、換気を行っている。また、天井には自動換気扇がついており、換気面では特に配慮している。冷暖房の温度調節も、個々の体調にあわせ、こまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が作業しやすいという視点で、生活環境を整えている。入居者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立へ配慮している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況に合わせて、環境整備に努めたり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、スタッフ一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みる		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者が、日常的に楽しむ空間はないが、近くの神社まで車椅子や歩行にて散歩している	○	ベランダを利用して、花を育てたり、日向ぼっこなど出来ればいいと思う

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全ての入居者に、PTやSTによる週2～3回程度のリハビリを行っている。また、ホーム内でも、チューブトレーニングや嚥下体操といった、リハビリにも力を入れている。医師との連携がとれ、定期的な受診、検査を受けられるようになっている。又、看護職員を配置しており、24時間の看護体制をとることにより、常に入居者の状態変化に応じた、支援を行えるようにしている。地域との交流を図るため、医療法人としての特徴を生かし、デイケアやデイサービスへの訪問、地域のお祭りや運動会などの催しものにも、積極的に参加している。